

お通夜に集まった五羽の鳥

～国譲り頃の天変

天の岩戸事件と天孫降臨の間に古事記には次のような記述があります。

アマテラスとタカミムスビは豊葦中国（地上界）を征服するためまず荒ぶる神を説得して帰依させようとアメノホヒを派遣するが帰ってこない。そこでアメノワカヒコを派遣するが8年たっても帰ってこなかった。オオクニヌシは争うでもなく、従うでもなく、何と彼らを取り込んでしまう。アメノワカヒコは娘シタテルヒメの婿にしてしまったのである。そこで鳴女（なきめ）というキジが派遣される。ところがキジはアメノワカヒコに射殺され、その矢は高天原のタカミムスビの足元まで届く。タカミムスビはその矢を投げ返したところアメノワカヒコの胸板に当る。シタテルヒメの悲しみの鳴き声は高天原まで届き、彼の葬儀には彼の父母も参加する殯屋（もがりや：遺体をしばらく通夜のため仮安置した施設）では河の雁を死者に食事をささげる役とし、鷺を殯屋の掃除をするものとし、翡翠（かわせみ）を食事をつくるものとし、雀を米をつく女とし、雉を泣き女として、八日八晩の間、連日にぎやかに遊んで死者の霊を迎えようとした。

オオクニヌシは高天原の神々より1枚上手のようです。こうして大和（邪馬台国？）の第1回出雲征服計画は失敗するのですが、これはいつ頃のことでしょうか？

想像逞しくして葬儀にやって来た5羽の鳥とは水星・金星・火星・木星・土星の5惑星のことで、5惑星の集合という天象と考えてみましょう。これは池田真澄氏の卓見です。1世紀～7世紀で5惑星が20度以内に収まることは筆者の計算によると5回あります。

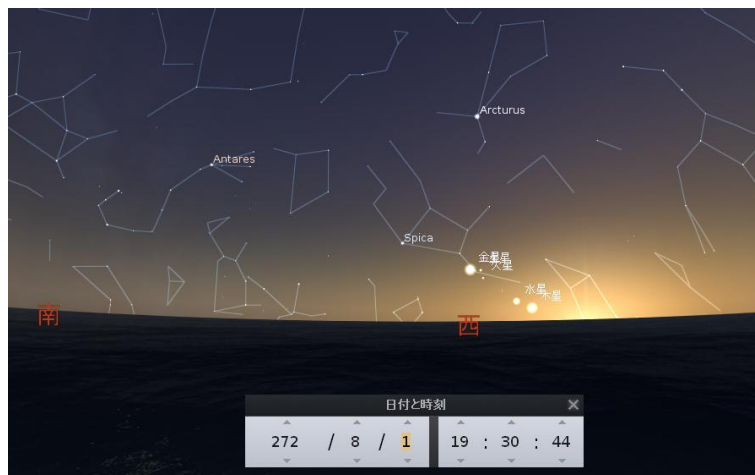
②は太陽方向なので見られません。①はヒミコ即位前、⑤は出雲が大和朝廷の支配下に入った後なので除かれます。残りは③と④ですが

③・・・日没後の薄明の西空です。邪馬台国女王トヨはまだまだ40代の現役で、晋の皇帝へ使者を派遣（266年）した数年後です。

④・・・日の出前で白んだ東空です。この5回の中では最もコンパクトな集合で新月前の細い月も加わっています。当時は中国も朝鮮もわが国も分裂状態で史書に記録のない時代です。

どちらとも決め手はありませんが、八日八晩のお通夜という古事記の記述には③の方がふさわしいようですね。この後出雲の国譲り・天孫降臨と続き、邪馬台国（北九州か近畿かは知りませんが）は出雲へ進出していきます。

	日 時	範囲	星座	備考
①	133 年 11 月 29 日 日没後	15°	さそり	
②	232 年 3 月 30 日 白昼	20	おひつじ	
③	272 年 8 月 1 日 日没後	16	ししおとめ	
④	332 年 10 月 6 日 日の出前	9	おとめ	
⑤	670 年 3 月 22 日 日の出前	17	うお	



272 年 8 月 1 日 19 時 30 分の西空

右下から左上へ 木星・水星・火星・土星・金星が並ぶ